

# みはま支援学校学校運営協議会（令和5年度 第3回記録）

開催日時：令和5年12月12日（火）  
9:30～11:30

出席者：委員5名、事務局（本校職員5名）

議事：①開会

②活動報告（学校長より）

③協議①「本校のめざす子ども像について」

④協議②「みはま支援学校の進路指導について」

協議会趣旨：

みはま支援学校の児童生徒の育ちを支えるため、学校や家庭、地域が互いの役割を確認し、協働して特色ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒も大人も共に育ち、育て合う取組の推進を図る。

## 活動報告・

### 協議①「めざす子ども像について」

【活動報告について…感想等】

- ・地域の方とふれあう体験など今までにない新しい体験がある。
- ・機会を見つけて子どもたちの体験を積極的に広げている。大変だと思うが続けてほしい。
- ・普段は友だちと外出する機会もなかなかないので、学校でよい経験をさせてもらっている。
- ・何年か協議会に参加しているが、取組が年々濃くなっている。子どもたちが様々な方面に視野を広げる機会を設けている。
- ・今までは「これは難しいな」と判断されてきた活動もあったと思うが、「どうやったらできるか？」とできる方法を工夫している様子が伝わってくる。
- ・外とのつながり、生活圏域をこえた体験は新しい感動や気づきを得て生きる力になる。

前回の協議会以降に取り組んだ学校の活動（野外音楽会、ロボットフェスティバル、公民館との連携等）について報告をしました。

めざす子ども像：  
**自分らしく生きる 豊かに生きる**

このような学習や体験をとおして、みはま支援学校がめざす子ども像について、学校長より、校内での協議の経緯について説明をしました。職員会議で出し合った意見も会場で見いただきました。

【意見等】

- こういった活動で子どもたちがどう感じたか。それをどうフィードバックしてもらって、子ども自身に意識づけていくか。子どもたちに「自分らしく 豊かに生きる」その瞬間を実感してもらいたい。
- 自分らしく生きるために自分でできることはがんばって、どうしても困った時は人に頼る。上手に人に頼りながら、「助けて」と言えるようになってほしい。『孤立しない自立』
- 先生たちは子どもたちに熱い想いを持って接してくれる。子どもたち一人一人の「自分らしさ」を福祉等も引き継ぎたい。
- 一般就労して困った時、「支援学校の先生に相談する」という人がいる。そういう関係があると、卒業後も安心して生活をスタートできる。同時に家族への支援も大切な視点。



## 協議②「みはま支援学校の進路指導について」



前回の協議会で話題にあがった本校の進路指導の取組について、佐々木進路部長から説明し、各委員から意見をいただきました。

【質疑等】

- ・卒業後、家族以外とつながっていない人へ学校が関わることはあるか？  
→そういうケースもある。
- ・高等部卒業後の進路を決める時期について。家族の意向ありきで進められることはないか。家族にも本人にも考えるための情報、材料、時間を設けることが大切では。（例：保護者向けの職場見学の実施 等）  
→今、TETAUさんの授業（学校設定科目）は高等部2年生で実施しているが、こういう学びは1年生から必要ではないか、とも考えている。反面、高等部に入学してくる生徒の多くは中学校でつまづいた経験があり、まずは安心できる環境で自信を取り戻すことも大切。
- ・入院生の卒業生対応は1年間だけではあるが、それでも環境に徐々に慣れていく大切な時間なので、これからも続けてもらいたい。

【今回のまとめとして…学校長より】

体験活動に向けていろいろな準備をし、活動に向き合う子どもたちの気持ちや自己有用感等を大切にすることがみはまの教育力。学校生活の間でしか体験できないことがたくさんあり、そんな活動を人とのつながりの中で体験させてあげたいというのが私たちの想いである。いただいた意見をこれからの活動に活かしていきたい。

※次回は2月7日（水）に開催します。